

伊勢上野城(別名無)(指定無)(津市河芸町上野)(本城山青少年公園)

上野城(うへのじょう)は、現在の三重県津市河芸町上野に存在した山城である。

上野の町並みを見下ろす標高30メートルの台地上にあり、台地の東側は断崖状になっていて伊勢湾を一望でき、他の三方は谷に囲まれ、南方は津市街が間近に見られる。東西230メートル、南北120メートルの規模で、本丸は80メートル四方の高台で、低い土塁と北西隅の櫓台状地を備えている。東側に二の丸が置かれ、その東側には幅20メートル近い空堀が造られており、北側に入り込んだ谷は古図には池と書かれていて、南・西の谷と共に城を囲む自然の堀を形成している。

現在は本城山青少年公園となっており、本丸跡には二階が資料室となった展望台が設けられている。

元亀元年(1570年)、織田信包が津城(安濃津城)の仮城として分部光嘉に築城させた。天正8年(1580年)、津城の完成により、信包が居城を移したため、分部光嘉が城代となり、文禄3年(1594年)に信包が近江へ改易になると、光嘉が城主に任ぜられて独立した城となった。元和5年(1619年)光嘉の養嗣子光信は近江国大溝藩へ移封となったため、廃城となった。

なお、賤が岳の戦いの後、お市の方の遺児茶々・初・江は信包に預けられ、一時この城で過ごしたと言われる。

(Wikipediaによる)

